

京都市長 門川大作 様

富堅作品「空にかけける階段 88—II」の撤去作業を、作家の了承もなく、切らずに掘り出すという約束を踏みにじり、作品に大きな穴を開け、切り倒す工事を京都市は始めました。私達は京都市のこの作品を破壊する行為に抗議し、直ちに破壊行為をやめるように求めます。

私達は京都市美術館と富樫実氏の作品「空にかけける階段 88—II」の保全問題に関して、7月21日に「確認書」を交わしました。

確認書を交わした時、私達は隣室で控えていた平竹文化芸術政策監、吉田市民文化局長、潮江美術館館長らを紹介されともに確認書の合意を喜びました。その時、貴志カスケは富樫氏がすり鉢状の設置に難色を示していたのは富樫氏が作品の石に非常に思い入れがあり切断されることに抵抗があったことを述べ、作品の石を切断せず掘り出すことで富樫氏に納得をしてもらったことを説明しました。富樫氏は石を切断せず掘り起こすこということを京都市が承認したから、すり鉢状の穴の中に設置することを受け入れたのです。このことは検討課題でも何でもなく確認書を取り交わす前提なのです。確認書には「検討」という言葉が付与されており、解釈がどうにでもなるように作られているので私たちは大いに心配していましたが、今回の切断問題は「検討」どころかそれ以前の約束したことが裏切られたのです。山田学芸課長は我々に頭を下げて「すまない」と言って何回も誤ってくれたが、そのような問題ではありません。工事を請け負っている松村組が「安全」を盾に美術館の要望を聞き入れないという。このことは松村組に京都市の幹部職員から強硬のサインが出されていることをうかがわせるし、そうでなければ松村組の横暴です。

一企業が京都市を抑え込むことはあまり考えられないので、やはり、京都市の幹部からの指示が出ていると考えた方が自然です。

となるとこの問題は美術館だけでなく京都市の問題となります。京都市ぐるみで作家を裏切り作品を破壊したことになります。市長は知らないですまされません。京都市が平竹芸術政策監はじめ幹部が確認書の前提の話を知りながら、また作家がこの長大な石に我々の想像に及ばない思い入れがあることを知りながら今回の暴挙の行ったのです。このような暴挙は文化都市をうたう京都市のやることでもなければ、美術館のやることでもありません。このことを世界の関係者がしれば世界中の笑いものになることは必至でしょう。

「京都市京セラ美術館」という名も逃げていきます。

もう一言付け加えれば、京都市と京都市美術館は彫刻に13センチの穴を開け、下部を切断するというを美術館は工事前日の7日に我々に開示しました。そして、そのことを受諾させようと7時間も粘って説得されたが、長老の富樫氏の健康も心配になったので、明朝、返事をするということで別れました。しかし、翌朝、我々が返事をする前にすでに

工事は始まっていた。一番重要な確認書の前提になる約束を反故にしなければならなくなつた事柄を事前にしか知らされず、我々には「イエス」いう答えしか残されていない状況での話し合いは話し合いでも何でもありません。このことは、京都市が確認書を軽視して、簡単に反故にできる確認書であるということを証明しました。我々の関係者が「市長のハンコがなければ何の効力もない確認書だ」と助言してくれましたがまさしくその通りでした。これらの手法は市長や市の幹部は責任をとらず、うまくいかなかった責任は下部組織の人間にとらせ、そしてお人よしの我々作家や市民を欺く手法でもあります。しかし、今回の問題は平竹文化芸術政策監ら幹部3人に話が直接届いているので、そう簡単には責任逃れが出来ないということを下部の職員のためにも申し述べておきます。

最後に文化環境委員会で自民党の西村議員が日本中の叡智を集めて保存策を考えてみてはとおっしゃっていたが、そのような努力をされる姿勢が微塵にも見られませんでした。我々が大手建設会社から情報もらい「根巻工法とポリウレア樹脂を併用」した手法の保存方法を提案したが、ポリウレア樹脂に透明なものがないというだけで簡単に不採用の結論をだされましたが、他のメーカーであれば透明のポリウレア樹脂があること調べもしませんでした。この工法はまだ研究の余地があります。この工法を採用できれば作品を取り外す必要もなく、工事技法は安易、経費ははるかに安価になることがあきらかです。このような研究も全くせずに今回の処置を行なったことも付け加えておきます。

以上の見地からわれわれは京都市の作品破壊行為に抗議し以下のことを要求します。

- 1) 彫刻を破壊する工事を直ちに中止すること。
- 2) 間に合うものであれば、再度同じテーブルにつき協議を重ねること。
- 3) 確認書を整理し、市長など責任ある立場の者との確認書とすること。
- 4) 富堅作品「空にかける階段 88-Ⅱ」を粗大ゴミにしないこと。

2017/08/09

作家 富樫 実

代理人 貴志カスケ

江藤佳央琉

富堅作品 「空にかける階段88-II」

根巻コンクリート工法ポリウレア樹脂施工案

11300

根巻工法で11mの石柱は耐震性が増します。根巻コンクリートの上にタフネスコートを塗装すればより磐石であると言われました。根巻工法は図面の通りです。

基礎のコンクリートと石と直角に接しているところを塑性ヒンジとすることで、地震の揺れが石柱に伝わり、石柱が折れるのではなく、塑性ヒンジのところで折れるように設計されています。故に塑性ヒンジのところに鉄筋とコンクリートを補強してやればよいとのこと。その上にタフネスコートを塗ればコンクリートの腹巻が補強されて万全であること。コンサルタントにもちかければ建築確認は取れるとのことでした。コンクリートの腹巻の長さは1m~1.5m、厚みは20センチで鉄筋の太さは計算が必要とのことでした。

—自由度系——単純

鉄筋コンクリートとポリウレア塗装

塑性ヒンジを生じにくくする

コンクリート基礎

200

GL

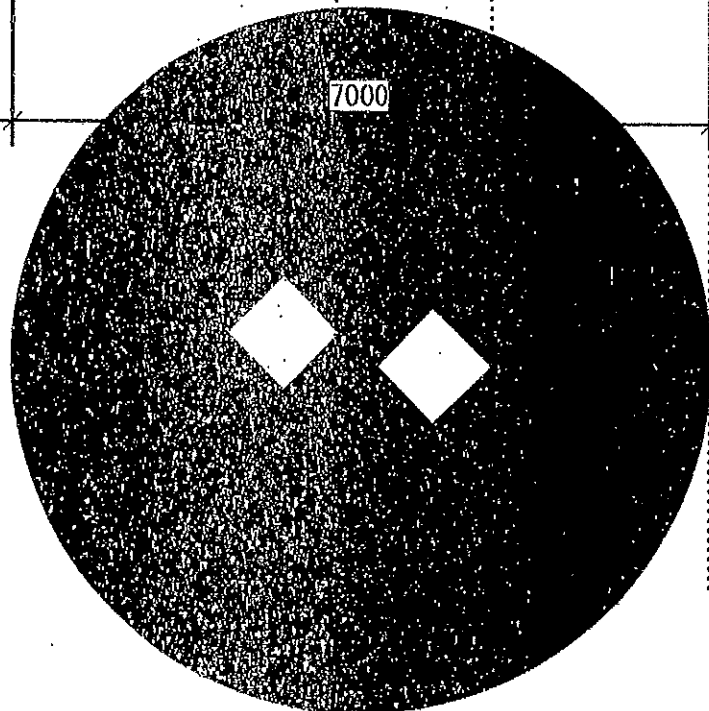
1000~1500

1363

鉄筋コンクリートとポリウレア塗装

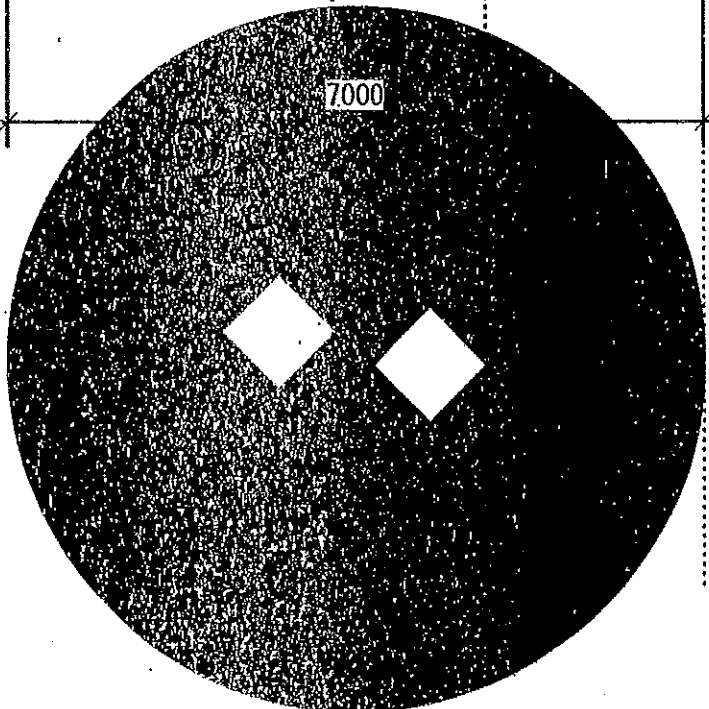
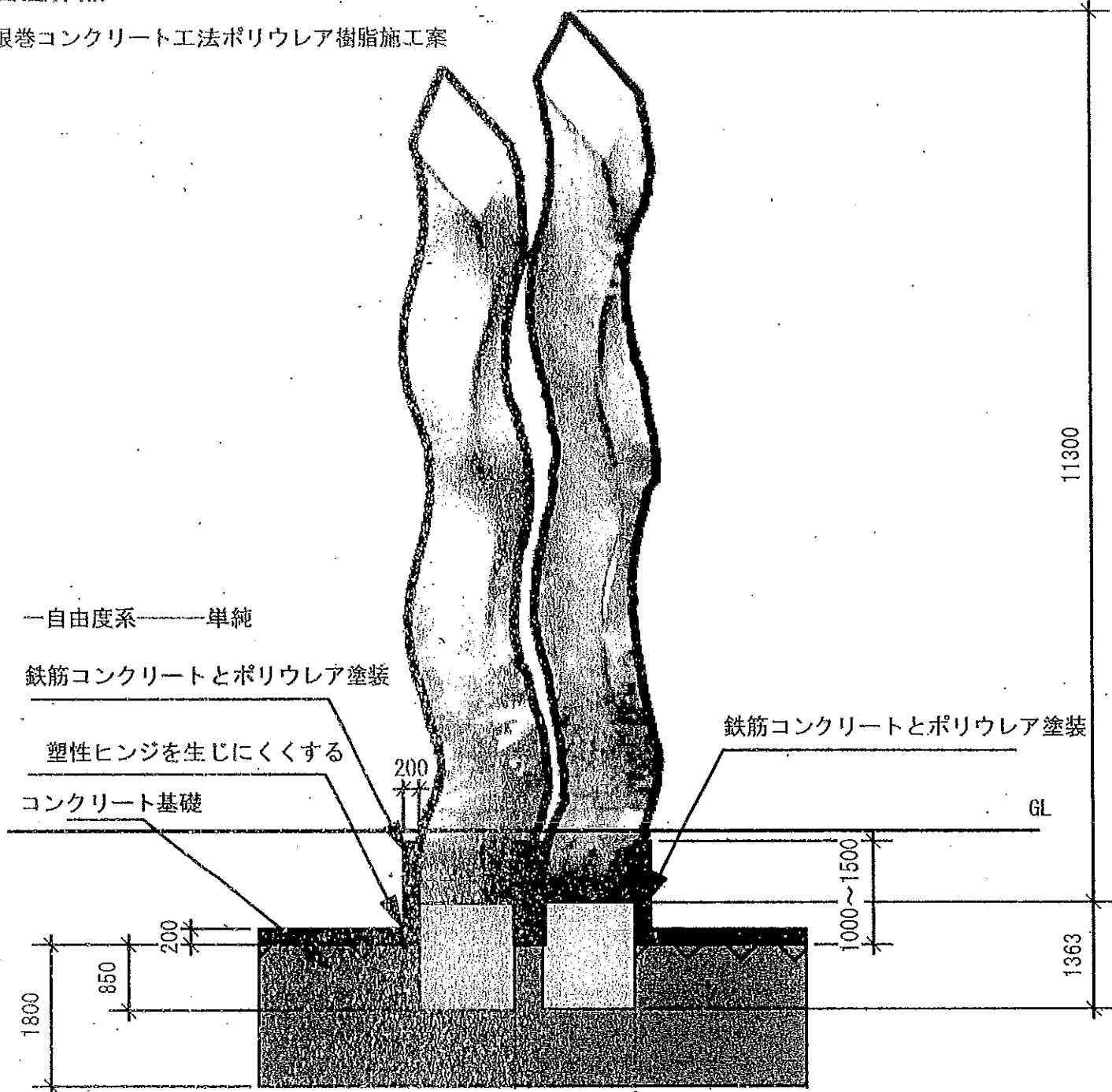
1800
850
200

7000



富堅作品

根巻コンクリート工法ポリウレア樹脂施工案



この案がお願します。

富堅 美

